



市民病院

ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

患者の皆さんの笑顔のために 高齢者サポートチーム (OST)です

こんにちは、認知症看護認定看護師の川上です。
今回は高齢者サポートチームの紹介をします。この
チームは昨年発足し、医師や看護師、薬剤師、作業
療法士、ソーシャルワーカーで構成されています。

主な役割は①入院中のせん妄や認知症の人への対
応に困ったとき、いろいろな面から情報を集め、困
りごとへの対応方法をアドバイスする②勉強会の開
催③院内デイケアの運営です。

「せん妄」は一時的に意識がもうろうとしているよ
うな状態で、自分が置かれている状況がわからなく
なります。そのため、自分で点滴を抜いたり、危険
な状態で動き出して転んでしまうことがあります。
また、認知症の人は新しいことを覚えることが苦手
なので、慣れた場所では普通に生活できていても入
院がきっかけで落ち着かなくなったり、あるいは元
気がなくなってしまうことがあります。

せん妄や認知症の人に対応する医療スタッフのス
キルアップを目指し、病棟ごとや院内全体での勉強
会を行っています。

院内デイケアは今年で5年目を迎えました。こ
こでは楽しみながら体を動かしたり、落ち着いた空間
で作業や会話を通し、患者の皆さんの入院生活にメ
リハリがつくよう配慮しています。季節に合わせた
行事では、8月に夏祭りを開催しました。院内デイ
ケアは生活リズムを整えるだけでなく、退院後の社
会生活がスムーズに送れるよう準備する場でもある
ので、今後たくさんの人に利用してもらいたいで
す。



碧南の歴史へのいざない

No.18 今もそびえる、煙突ふたつ (旧大浜火力発電所)

碧南で火力発電所というと、皆さんよくご存知の
中部電力(株)碧南火力発電所（総出力410万キロワット）
ですね。ところがこの発電所が出来る前に、かつて
もう1つ火力発電所がありました。

大正12年（1923年）に、岡崎電灯という電力会社
により、大浜火力発電所ができました。石炭火力で、
出力は4,000キロワットでした。その後、昭和2年（19
27年）に6,000キロワットの増設が完了したことで、
高さ53メートルの煙突が2本となり、三河における
電力供給の大きな役割を担いました。

写真①は、このころのものです。しかし、終戦間
際の東南海地震・三河地震で被災し、両方の煙突の
上部が破損してしまいました。今もその姿のまま残
されています。写真②は現在の建物ですが、外壁に
当時の大浜火力発電所のマークが残っています。

問合せ 文化財課内市史資料調査室 ☎(41)4566

戦後、大浜火力発電所の一部は中部電力の変電所
となり、ほかの部分は民間工場に利用されること
になりました。



△①大浜火力発電所北
面（市所蔵）



△②大浜火力発電所南
面（現石川鑄造(株)）

写真で見る碧南

明治・大正・昭和初期、そして、碧南市誕生へ

大浜火力発電所などの写真を多数展示する文化財
展を開催します。

とき 11月7日(土)～23日(月)

ところ 文化会館